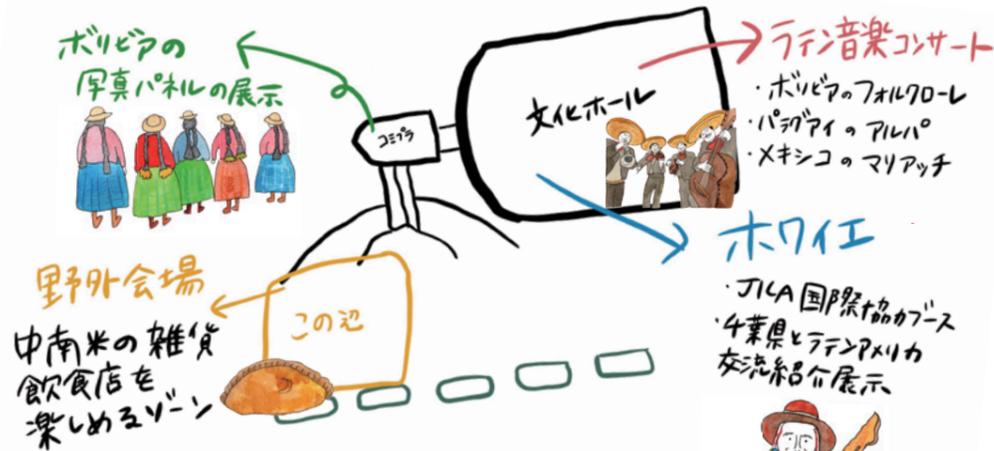


# LATIN MUSIC FESTA in TAKO 2025

千葉県とラテンアメリカ

の当日コンテンツをちょっとだけ公開



# 定期便

地域おこし協力隊の

届きました！  
1月号



多古町非公式  
キャラクター：  
セニョールラシ

2025.2.2 sun

多古町コミュニティプラザ文化ホール  
開場 午後1時 開演 午後2時30分  
(野外会場 午前11時30分)

【前売り】野外会場で使える割引チケット付き！

大人 2,000円・学生 1,000円・中学生以下 無料

【窓口販売】  
多古町コミュニティプラザ・多古町魅力発信交流館たこらぼ

【当日券】  
大人 2,500円・学生 1,500円・中学生以下 500円



前売りがお得☆

南米アンデス地方の民族楽器

## チャランゴ教室

1/18, 2/1, 2/15, 3/1 全て土曜日

午後2時～4時 受講料 2,000円 全4回

チャランゴレンタル費  
別途 2,000円

会場：多古町魅力発信交流館たこらぼ



## 多古町地域おこし協力隊インターン

### 市川菜緒子の活動と今後の展望

11月中旬から2週間、地域おこし協力隊インターンに参加した市川菜緒子です。前半は、現協力隊員である佐藤貴英さんの元で林業研修を受け、後半は「いきいきフェスタ」の準備を手伝いました。私には、「多古米で有名な多古町で日本酒を造りたい」という思いがあります。来年には多古町地域おこし協力隊に応募し、最終的には多古町に定住したいと考えています。

現在、5人の仲間と法人（労働者協同組合「鮭酒造」）をつくり、活動を始めています。

## 11月22日よりCAMPFIREにてクラウドファンディングに挑戦中です。

令和7年1月15日までクラウドファンディングを実施しています。小さくてもすてきな酒蔵を建て、日本酒、どぶろく、クラフトサケを造ります。酒造が完成したら、設備の貸し出しを行い、多くの方に酒造体験を提供したいと考えています。酒を造りたい人が自由に酒を造ることのできる「酒造りの自由」を実現します。まだ酒蔵がないので、今年は友人の酒蔵を借りて日本酒を造ります。ぜひご支援いただき、鮭酒造の日本酒をお試しいただけると嬉しいです。どうぞよろしくお願いいたします。



楽しいまちづくりに参加しませんか？

# まちづくり会員募集



お問合せ●一般社団法人 多古町観光まちづくり機構・地域おこし協力隊 ☎ 85-8066

# 200年の歴史に幕 ～牛尾の蛇祭り～

牛尾の蛇祭りは、牛尾地区に江戸時代から約200年にわたって伝わる伝統の祭りです。毎年11月に行われ、わらを編み上げて作った大きな大蛇を地域の若者たちが担ぎ神社までの道を練り歩いて、五穀豊穡を祈ります。

令和6年11月10日(日)、最後となる蛇祭りが牛尾地区の白幡神社で行われました。今年は大蛇を作らず神事のみを行い、その歴史は静かに幕を下ろしました。氏子として地域の皆さんが守り受け継いできた伝統の祭。人口減少や少子化などの課題もあり、地域の皆さんの決断で今回をもって最後となりました。世代を超えて歴史を紡いでこられた牛尾地区の皆さんに敬意を表します。



神事の様子



牛尾地区の皆さん



蛇を担ぐ様子(令和元年撮影)



加瀬正裕さん(牛尾地区在住)

昔は、地域の子もたちが祭りの前日に学校から帰ると、大蛇の胴体作りでロープ引きを手伝ったりして、地域の中でにぎわいを見せていました。一方現在では、少子高齢化や人口減少、ライフスタイルの変化などもあり、「女形」役をやるお子さんや大蛇を担ぐ若い人たちなど、人を集めることが大変で運営も困難になってきました。

永く受け継がれてきた稲わら文化の伝統行事が無くなってしまふ寂しさはありますが、地区の皆さんも終了はやむを得ないという認識を持っており、今回の決断に至りました。祭りは無くなりますが、これからも地区の皆さんとの付き合いは続いていきます。

多古町の牛尾地区に「牛尾の蛇祭り」という祭りがあったことを、多くの皆さんの心に留め置いていただけたらうれしく思います。

## 【取材後記】

片付けをされているときの皆さんの表情は明るく、仲の良さを感じました。伝統行事が無くなるのは寂しいことですが、地域の皆さんが実情を踏まえて決めたことだと思しますので、前向きな決断だったのではないかと思います。伝統の良いところは残しつつ、時代に合わなくなってきた部分は柔軟に変えていく、これからの社会に必要なことではないかと思いました。

## 多古ロータリークラブから寄贈されました

多古ロータリークラブから多古こども園に散歩カートと着ぐるみが寄贈されました。ロータリークラブは奉仕活動の一環として、毎年、町内の小中学校などに寄贈事業を行っており、寄贈品には「子どもたちの笑顔と健やかな成長に役立ててほしい」という思いが込められています。

こども園では、普段のお散歩やイベントなどで活用していきます。

